

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

弘化四丁未年中上の書付

六月五丁の流来之阿蘭陀船の乗組員横文字書翰

和解

六月五丁の質人の紀の舟中口上の中上の

一 定例の多量船を被り月廿六の咬啣吧出帆仕洋中
 定例乗合の忌忌存仕

一 出組人数九甲四人 一 船政の各 二 テイセシ

一 船の各 スヘルト一ケホス 一 船之大サ 四百三十三ラス卜

一 船の各 有江サ所存仕

風説書

一 南年事船之阿蘭陀船を被り廿六の咬啣吧出帆
 仕海上河列乗合の以南地先存仕右書被り之

新報 江戸新聞

一 臺灣に於て唐船凡十二艘日本地方に於て四艘見掛

一 去月廿九日十月六日泊帆仕り「アン子イ」船日敷廿日
陸奥上流に於て十日未だる咬咬吧島船仕り「カンカ」は
迎へ於て唐船一艘見掛けん右唐船ハ六日後に咬
咬吧島船仕り

一 去年中上りおビリシシジ地の王系右王の兄弟が
アスサム内 山中に隠居居り陽を不出る印度
支那を往りしもの 惣督赦免を以てしめ使者と云ふ邊り中右王
中極をお立改る事あり而して後一十分のチ系相
より上報免いし

一 せりシグ地 中小岩と築き阿蘭陀の軍を以て因と結

一 阿蘭陀國王に右勝利を致す如格別軍功あり
い兵と云ふ賞あり

一 和蘭船曆數一千八百四十六年 弘化三年の末半年
より唐船の工ヶレス國より案二千九百二十一万八千二

一 百八十二出シト云々船中けん
爪哇中 船中けん
右外お務りゆ流云々船中けん
右通船民系云々阿蘭陀人中口かひん船中けん

一 和蘭船名上りけん

通河月台 連印
大由通河

別後風流書

一 阿蘭陀國王益多親王と親族より近江守相
等より

一 阿蘭陀國故地平度の船松浦と市「ポーター」のラ
テイヤ名 舞を多組とるを不持とありと金集りたる
よりぬらんれよりえり右ラテイヤハ本平度より
不支死より「ポーター」地の「ユルタ」舞の幕下より
しん

一 本平度の地を「ポーター」地より軍船を
りて「ポーター」の「ユルタ」舞「ポーター」のラテイヤ」と攻め
たせし罪を顧赦免と乞ひ奉るなり何れも積りぬえ
斗ヤン右存あり積り後地を「ポーター」の命令有

しは時「ポーター」の「ユルタ」舞を又死言及り奉り序
よりりり希「ポーター」のラテイヤ」とお育りれんが衆
の赦免と乞ひ奉り右存あり何れも積りぬえ

一 「カツサ」地より水通高の一港とあり流る何れも積
積却り時より「海陸」運上より「ポーター」相
成りしん

一 和蘭陀國救一千八百甲午年新化記中より印度より
蘭陀をふりたりあり何れも送るより「ポーター」の命令よりおさ
りしん

- 一 コービー豆 九十三万二千六百六十七枚
- 一 砂糖 二十二万三千八百六十俵
- 一 青黛 一万二千六百廿三枚

一 瓜哇産茶

八千四百十九箱

右の外存お許多あり

右の物と和敷百字艘云々運送し

一 唐國とコケレ区 國と和陸お許しり抄舟山と我

軍の支費賸のしめ貨物としてお許す

一 右支費賸し年限お許しり國既曆敷一千八百

早六年七月 弘化三年午 國五月三日 舟山と唐國アウトリイ止破

よる返す

一 唐人た已る方ふし中極めの約定と云はるり船 上ケ

レス人た已念子在中極も唐東より下軍の老た

目ふよあふ人極よよ入ぬと云と不手よあふい不極

限難あり

右限難しと云はるり為あし 香港 コンよよ在中上ケレス在中

コルヨシターフー区 弘化四年未 和業曆敷一千八百早七年廿四

月二日 二月十四日 蒸氣船三艘其他の軍船并海軍

一隊と引連せ唐東の川よ赴き 地 おウカーテイクリ区

の岩を子細く査察す 地 上ケレス船ハ其夜「ワコボ」

地 よる在中

和立朝軍船 地 出の蒸氣船二艘唐東よ赴き 地 中目ふ

と於て岩と押入し 地 唐東よよ在中夜由在中のケ

イインダ 地 故おシコンよよ在中上ケレス在中の方よる

双方中極とあふ 地 中目ふ大急た 地 通

和蘭既曆敷一千八百四十七年才四月六日 弘化四年未 二月 廿一日

を幸ひし 地 極のケ業大急と死ス

廣東に罷在し唐國と舟行とホシコン地を罷在しエケレ

才一ヶ至

一 才四月お定り以後三年の百唐集り地よりエケレス川

以下のお定り出入りお定り事

一 才五ヶ至エケレス川以下の老元唐集り近隣の地は職業又ハ持

撒の為サシハシ地 同右居住赦免致さくハ若エケレス

人の居住を所る事於方ハもてお定り事

一 才十月十一日取方の老元波根藉り老元中三月十三日控福別

コヨ子ル友セス子イ人及びエケレス川以下の老元諸人

名を以てお定り行へくお定りエケレス川以下の老元諸人

一 才此を捕居り老元ハ唐集り引違は日取ハお定りエ

ケレス川王の執政ハもてお定り老元ハ唐集りハお定り

引罷科 事

一 才川ハ「ポーナ」地の方よりエケレス川の商人

ホノ家屋倉庫立立の爲て惣流を場前お定り家

ハ執政の老元集り退りお定り事

一 才卯申の老元集り一ハ土地の近隣の寺院建立乃

為て惣流一ハ「ポー」地の内お定り土地と老元之の老

元集りハお定り事

一 才及花地のふるハ惣流を御造他賜りたるハハお定り

子店とるハハ惣流ハお定り事

一 才一ヶ至エケレス川入口よりエケレス川ハ惣流ハお定り

ハ惣流集りハお定り事

一 才エケレス人たは命奉りハ惣流の大砲八百挺の火

門は引とて近司達ハ惣流ハお定り事

一 才一ヶ至早子六年中十一月六日 弘化三年午 十月十八日 卯申 才一ヶ至エケ

レス國より唐船を艘出帆候一被ケイングと号し
エケレス必の船改ケルレツテ人のま死よありしむ
梁組の者在いあふ唐人はありし新くを海先航
の波濤と唐船の候る事是迄ありしは

一 北アメリカ合衆必の新コミサリース友唐必と候る
と名斗の為メカラるるりヤハ右コミサリースの名
ハ「エフエレフト」

右新コミサリーリスとオンドルコトニシグ
ケインク人オントルハ下ノ義子
ニシグハ王と云義と名會いし

一 フラルトロロー子人唐必とてフランス必候るものと名
扱ひ者よ命をくしサークゲラステイグデト
友機よありし

一 東京府よりみよエケレス國軍勢が許多あるの中
「ブロービナン」地ふあ集りし「フイセアドミラー」官
「インクローイルト」人ハエケレス國の軍船「エルノ」
船よ梁組南時ボノオ地兼「ロク」地のりよ赴り候連
一 ありし

一 跋趾國「アウロン」地の港内よ於てフランス國の
軍船四艘と跋趾必軍船の艘との閉鎖ありし右義
争め東國ハフランス國の執政と陸よ呼あそる原
よフランス國の船と名あれは跋趾必の都府を名向
り先を密に秘候りしとを察り山本時よあり候り後
跋趾國の舟三艘空申よ飛散りし金武船ハフラ
ンス人棄る候候中ハフランス人ハ只一人死にし

今一人ハ此ノ原者ありん

交趾人一人ハ此ノ地に死しん

一 暹羅王命王との高僧と此ノ地にありん
振振とありん

一 暹羅王の命ヲ因テあり英藩のフリカット軍船ノ一種とチ速暹羅の王エケレス王ノ砂瓶運送の乃よあり
ひしん今四艘暹羅回王の雜用してチ速の宮中
ありん

一 アウスタリー洲の内エケレス人所領の土地漸々と廣まり
中ハはるあ付ハポルトアデラーテ地ノ港高僧の乃入津の
船教よありてハ後きとあり説ありん

一 スタコールフラレス地ノ北東の諸ヨありん「ウカスト」地之

港とありん此ノ港とあり運上ハ船ありん

一 一千八百四十六年七月弘化三年午
五月廿九日エケレス人ハ救多の海軍と
以テポリ子ラプロベル島の因ブルナイ地地のシエルトン爵と攻
伐中ハ右シエルトン爵フルナイの海邊ヨ災害し
一ハは城たりとあり擔りしハありん

一 一千八百零六年十二月弘化三年
十二月廿九日エケレス人ボル子ラ地地北方
の諸ヨありんラボア地を而後しん右島ヨ石炭
山を産しそ石炭を唐國トシガホルル地トよけ返
いしハ英船ありありありあり

一 フランス人オタヘイテ地とあり徳人ありん
勢あり頻りにありあり

一 エケレス人と新ゼーラント島の國民との確執ハ今

お供不中因松よお供し勢をなすらん右
土地と追舟路一軍卒あるお供を地よお供と
迂しりるいと念しやありらん

一 ロンドン^{エケレス國}の地 各東平度蒸氣船と海海のシシカボー

地 ヤーフハ地テイモル地ホルトエスセングトン地トルレススタラ

トト地子ウストレ」地シテイレイ地と御ん事ありらん

又或ハセイロン地オスワリフェル地ホルトアデライデ地

等く徳りぬぬりしを言ふ味よアウスタラリ

よ及不トア」物を皮しユエス^{地中島と西紅海と}と地切

り大船の運送と云ふはつる各并別よありらん地業

を南付エケレス國フランス國希よオーステンレイキ

細めて目論居り中、お供エゲイプテ國中よ控て

系地よ水と灌いありイル河を塔築路一業あり出

精治長中シリベリ一西中船中ウーラル河の水筋よ控て

あり許多の令と地出ーパルを言千八百四十六年^{三化}

觀よ二万八千四百カム子ートルラシボント」^{一ボントハ日本一舟六合セケ余ある}

一 オレゴン河よ控てエケレスと北アメリカ州合流よとの

境の長いあり確執ありしは双方和流よありらん

オレゴンの地よ北アメリカ州よ属しあり

一 フェキサス地と北アメリカ合流よは合せり一系あり同味

とメキシコ一各と開戦ありしは是迄合流よの方よ

勝利ありしは英軍の防禦思ひの外望ありあり

しり「シンテレイ」^地と四日の地よは合流ありあり
才二月廿二日^{以化四年未} 惣務シントアンナー」^{人名}メキシ

コー軍の司ハロツト名人と合戦よりひ右と「イロ
 ツ」合戦の軍勢の一組と「カールテイルロ」地名
 近接ケテ大戦二日渡り「セントアルナー」名を
 陣とせり「退き」名に「フラキユルツ」地名并
 「セントユアントユル」ハ既「アメリカ州合戦」名の事
 々スコットト「集」名に「中」名者
 一オリ「ラルニー」地名「合戦」名の軍勢と居
 一「イスハニヤ國中」名に於て嗣位と争ひし事漸
 中「父の」名改と嗣位知者名の女王ハ公子「フランスユ
 ーデアレス」名と婚姻し「公子ハ彼の女王
 の叔父の子」名「國王」名「ガルロス」名の兄弟の子

一「おあり」名の「多」名「右ドンガルロス自ら」名を位と嗣へ
 死と「念」名「右」名「嗣位」名の念「今」名「王」名
 子「ヘルトク」名「デモウチ」名「ウリ」名と「入」名「教」名「同」名
 右「デモウチ」名「ウリ」名ハ「民」名「入」名「教」名「同」名
 「スハニヤ」名「國」名「中」名「に」名「居」名
 一「ポルトガル」名「王」名「を」名「一」名「揆」名「後」名「に」名「在」名
 扱者「今」名「に」名「在」名
 一「政」名「羅」名「巴」名「統」名「州」名「に」名「在」名「アールドアップル」名「の」名「不」名「他」名
 「ドイツ」名「王」名「フランス」名「國」名「に」名「在」名「スコットラ」名「ト」名
 「セント」名「ユアントユル」名「の」名「事」名
 一「州」名「に」名「在」名「食」名「料」名「を」名「一」名「者」名「ハ」名「依」名「ル」名「ハ」名「アメリカ
 州」名「に」名「在」名「の」名「蜀」名「黍」名「麥」名「粉」名「と」名「其」名「他」名
 一「魯西亞」名「國」名「と」名「ガルカシユ」名「ス」名「山」名「任」名「の」名「者」名「と」名「の」名「争」名「乱」名「今

よけて法り不_レし魯西亞_ニ民カルカシユス_ニ急角_ニ位
別_カ々々_ナ者_ナ也

一 フラシス人とアルケリ_地エミルアブトエルカト_人此_谷との

争_レ礼_レ今_レは法り不_レし_人を同_レ人_在の幣_金花_を棄_ク也

一 右エミルアブトエルカト_此ハ_ハフランス_國の領_地を去_リ

僅_の陸_後と荒野_ニ走_リ也

一 エゲイア_テ_名執政_ノ月_ヘメツトア_リ人_の嫡_子イブ

ラヒム_バカ_レ戦_の老_バシイス_の府_長子_ロント_ン
エケレス
の府

一 フニ_ニス_國のほ_まもフランス_國に_見舞_レ右_右同_後
ヨ_レ取_中也

一 フラシス_國ノ_星学家_レフ_エリ_ル人_曜星_を新_レ

見_ル半_ニを_守と_テブ_テニコ_スと_唱也

一 ドイツ_國の_医学_ボツ_{セル}人_綿ス_ワフル_シユ_{ール}
硫_酸黄

を_濡一_放棄_の勢_を係_レユ_スと_發明_レ也_一以_綿を

少_一少_砲返_め放_られ_れせ_ぬ陸_砲と_込め_發

一_の勢_と同_レ也_一

一 アメリ_カ別_ニは_スワ_{ール}エ_ウトル_種と_以て_人体

と_瘡一_のユ_スと_發明_レ也_一

一 法_政羅_巴中_ニは_傳り_也

一 政_羅巴_ハ咬_吸吧_ハ紙_裂衣_の偏_人と_名也_一其

機_圖微_細の_部也_一近_今人_体と_字を_解釋_也

一_の勢_と同_レ也_一

右の人体の内部のるを公けらるのたよるを
 一 欧羅巴州に於ても北アメリカ州に於ても漸くは毎
 と定規するに右目論ハアメリカ州東流の西流は又ニ一少
 ムルク谷のオレゴン領のコロムビア河は陸軍のたよるを
 以て道とてききと一吋の幅より十分の或は十二寸りり
 運送せらる

右のるを公けらる

かひいん

若 設 井
 よのせりるん

せんん

右に板橋文字書付を記し出の舟和解を記す
 本 木 昌 左 衛 門
 西 占 一 節

橋本 渡 左 衛 門
 高 山 源 左 衛 門
 植 村 能 七 郎
 小 川 宗 大 五 郎
 西 記 志 十
 志 築 龍 吉
 若 木 源 七 郎
 小 川 梅 四 郎
 各 村 貞 三 郎
 橋 本 源 五 郎
 橋 本 定 一 郎
 高 山 宗 三 郎

一 以化二十年七月十九日夜用書まじ山御上 吾生ス

今日日長公 船を被渡す方未礼りまてイキ
リ又國に役形を張出まじり内新あり之受
右果に法度台且取取せし辰中 立外に親来
後亦お笑不中し由也 崎より名をい 家来し
正伊次子久他等とて山守在馬中 伊次れ不取後
向園院取入陣よりある也 取形仕取内計尾
海網了備より不古 お達し取知仕りし方辰中
りしと

七月五日

杉浦を渡守

一 同奉七月七日山用書まじ山御上 河新橋の山邊出上

五十五

私任内玉了備之因大船西中初より三船可
御沖合一廻りの上利以河内國院和仰之矣
取是被古之る家折帝内西島野妻産と核子
難未極内西一方上東通を秘帳叙又隠之能
回不之之書不の昔年より付分備之書文
考之中中付分は辰申申中上の上

六月廿五

大村丹後守

乙七月廿四日用書より下中を仰る所あり

以伊の長國取を被渡す伊王治下控却に付
多取丸よりよりイキリ又四ヶ役形を我承取に内
新あり之妻たふえ法成方且新取等一申一立取
報あ依もあ少ふし辰伊候あ他方以上付しお
達し通取知仕は辰申申中上以上

七月廿四日 辰申日付

大村丹後守

以伊の長國取を被渡す伊王治下控却に付
以河内福田浦園取出に柳伊氏伊氏家本意
以上書きたり速國形取且長崎院在取上家
老措方中付は辰申申中上以上

右に成康初の医師仲宗茂三郎の事

弘化二年七月九日開書方山柳古名

口上之

長湯表の河原に被流す一昨日申中津波入
津の例に高貴に被流す別事と新加いし津波
中い當年も被流す被流す津波に津波に河原
人共中い由信に被流す津波に津波に河原
家の中い由信に被流す津波に津波に河原

六月廿二日

松平重敏

已七月廿二日開書方山柳古名

口上之

一昨日方山柳古名被流す津波に津波に河原
し被流す津波に津波に河原に津波に河原
分且被流す津波に津波に河原に津波に河原
被流す津波に津波に河原に津波に河原
し被流す津波に津波に河原に津波に河原

七月六日

松平重敏

同日方山柳古名被流す津波に津波に河原

去四日申中津波入津の例に高貴に被流す別事と新加いし津波
中い當年も被流す被流す津波に津波に河原
人共中い由信に被流す津波に津波に河原
家の中い由信に被流す津波に津波に河原
被流す津波に津波に河原に津波に河原

大目付役おれ大筒役も亦小役人木死せる心苦し
ゆれば各々歎進江急座中上を以て後主殿政様御
付り方々候下上の上

松平之殿政様御付

七月廿二日

神谷 貞

因亦廿四日用番考山候上左五

口上之覚

去レ四日渡来沖掛りこイキリス形を被時八日政
お悦り方行候矣候も遠山半左衛門長橋表上左五
の家来こ七人中伊左衛門は辰中上の上

七月九日

松平之殿頭

因七月廿七日朝四用番考山候上左五

口上之覚

け乃中上いイキリス形長橋は渡来し身形候は元
也子速子誠伊左衛門は遠山半左衛門而候て仕不
先達中ノ病氣を立事医師ニテ修用仕候は元
篇のけり身事付細川誠守も手医師お拓修居仕先
かゝ完結方々も伊左衛門は元南條押之介誠子誠
ゆけり心内分履進固人救之矣子科長左衛門
の辰守は元中上ノ達は元又家来松平勘十由中
去去九日被地は元也伊左衛門は遠山半左衛門
は元也也也守は元用番ゆけり也也也也也也也
也也也也也也也也也也也也也也也也也也也
也也也也也也也也也也也也也也也也也也也
也也也也也也也也也也也也也也也也也也也

去し由中載り乃以辰山廟中上の上

七月十一日

松年主殿既

己七月廿二日開書方山ノ下中夜の通部下上上

去四日也為表名号由取老般渡来ノ舟中紀以
イキリ又圓之彼取之流由系也下内新水之愛太
水也又流之方且取取之流中立即之果表候也
不中少被被地取名の家名也其上伊匠更候也遠
以方中達の候し同二日彼地取表述者改彼郡代
彼目付取之老組一古達中取人お取之老組八日
老を及表名号乃用少被被地トテ其載方其不表名
中載り以辰山廟中上の上

七月廿二日

小笠原休庵方

因取日考ノ山取山取山取

去し四日流来陣掛のイキリ又取一艘因八日取出
帆の候也為表名号の家名也其上伊匠更候也
以方中達の候し其表名号中載り以辰山廟中上の上

七月廿四日

小笠原休庵方

以化二己年七月廿一日開書方山ノ下中夜の通部下上上

一筆渡取之舟老為流伊匠更候也其上伊匠更候也
以方中達の候し其表名号の家名也其上伊匠更候也
白帆取之艘也其表名号の家名也其上伊匠更候也
去し之例河内國院取入候し通取方其表名号

と初産場、之自南向、例白帆取、取已不通、
公知り候、常中、之、後、合、國、簡、音、取、中、の、身、程、又、森、本、
之、老、子、也、お、何、く、之、神、母、後、を、之、昔、白、帆、取、お、見、
以、候、及、匠、を、以、何、業、元、高、賣、取、先、方、入、律、之、最、取、
取、之、身、中、お、取、の、身、之、存、神、一、取、之、方、之、身、
律、善、不、使、向、之、海、着、守、方、之、交、方、之、中、身、之、取、
以、此、不、定、意、お、上、り、何、業、元、取、入、律、和、候、以、善、不、為、
又、何、今、日、由、作、昔、是、子、誠、様、中、能、此、州、渡、信、取、
太、之、取、不、知、仕、候、以、善、不、法、着、守、お、上、り、取、
神、且、又、家、先、是、向、之、法、之、子、不、増、人、教、守、可、く、玉、許、
お、立、子、誠、り、候、中、を、以、此、取、為、之、上、呈、取、礼、以、之、得、信、取、

七月六日

松平右衛門守

河部守隆が
取守、彼、若、者、
上、之、山、中、の、
戸、田、山、中、の、

新、丁、中

江化二年七月六日の用書者、山、中、の、取、守、右、衛、門、守

一、年、江、化、上、の、取、守、今、日、何、の、候、何、候、取、守、彼、
若、者、の、家、事、之、志、お、何、同、の、是、由、取、守、神、流、来、身、
之、取、守、り、之、お、イ、キ、リ、又、何、一、彼、取、守、之、法、由、業、也、何、取、
水、之、取、守、た、お、之、交、方、且、取、守、之、取、守、之、取、守、
候、お、お、何、不、可、也、以、言、付、り、お、違、取、守、以、此、取、守、
以、善、不、向、増、人、教、守、候、取、守、候、取、守、候、取、守、
以、於、取、守、中、取、守、候、取、守、増、人、教、守、候、取、守、候、取、守、

中紙の紙は原為下上と云ふ紙に其位修之

七月六日

大村丹後守

連名紙

新紙

弘化二年七月廿八日以前用書者少く後西の方にも家々紙は用之

一 平手啓上仕

公方様 右大納言所藏紙は其位修之紙に
宛茶紙の紙はイキリ又紙は其位修之紙に
其紙は伊保紙他と對紙仕るイキリ又紙は
其位修之紙に其位修之紙に其位修之紙に
其位修之紙に其位修之紙に其位修之紙に
其位修之紙に其位修之紙に其位修之紙に

七月九日

大村丹後守

河原田紙

新紙

其位修之紙

其位修之紙

其位修之紙

一 平手啓上仕

公方様 右大納言所藏紙は其位修之紙に

宛茶紙の紙はイキリ又紙は其位修之紙に

其紙は伊保紙他と對紙仕るイキリ又紙は

其位修之紙に其位修之紙に其位修之紙に

其位修之紙に其位修之紙に其位修之紙に

其位修之紙に其位修之紙に其位修之紙に

其位修之紙に其位修之紙に其位修之紙に

之後乃平上持悪札以与信修云

七月九日

大村丹后守

信平如承書

多々々

以化二年七月用書を後但馬守后下云来

一筆啓上仕

公方梅

右大將梅益所様様往元成山社志

順玉極幸後以得亦吾様往山望勝云云如也

勤仕改命云云事一有及ん物去云四日イキリ

又取幸被派来仕右之諸回為測量圓玉云

云云在り方云云南渡云云云云云云測量云云

佛回標云云不古成方中流以度形中薪水食

お念之云云以買法度度中云云付云云貴後

以化二年

所回法親古成各一應中派新永油野菜
等亦文以後日本之地方也而再派來成乃
發台書也其心中派少不承伏仕時八日而神合
江別乘出帆仕人右一候為下上呈恩札以隨
而尚地亦通國述古習依之中此以恐惶謹言

遠山半左馬

七月九日

則共

伊次員代守

政義

津連名楨

系人々中

弘化三年年七月七日以前書所新成也 城番古光出到

道中川之出有之通志之限中述及也

但口掛之可新成南ノ四月番友以同成候申之書也

和信之之河玉派取取而ノ村地之沖合ニ今廿六

日申到之先由和是般取之右村台源在中

知り之付弟取之右中付之右人取之書之自序

其取之右ノ時合之書或書之ニ書之ノ人取之書也

下ノ其又之右ノ心以之河邊沖合之右向心同

和取之右ノ右河邊之右心以之家申之右河邊之右中其

付取之右ノ付取之右人取之書之又其取之右中其

細之書之通之ノ下上之右取之右取之右取之右

中其取之

右の脚... 後川... 弘化三年七月... 伊予... 長...

弘化三年七月... 伊予... 長... 伊予... 長...

弘化三年七月... 伊予... 長...

弘化三年七月... 伊予... 長... 伊予... 長...

弘化三年七月... 伊予... 長...

弘化三年七月... 伊予... 長...

弘化三年七月... 伊予... 長...

弘化三年七月... 伊予... 長... 伊予... 長...

世人心世心世心

六十一号 女名目 町持方書付

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like '一', '二', '三', '四', '五', '六', '七', '八', '九', '十'.

此後丙午年六月六日長崎表沖合三島三艘中
追々合島と名大矢持船のち千白三三拾里斗中
便に立廻り七力渡り入津

市中口福

白帆船三艘又舟の口福を有るは元末高島船を
又と新水舟を乞ひ船中お舟りとの不候は
法に下お取らる市中五路平一平介浮説中福方
本方お福の舟多敷而る四達お取らる舟り
り取の福了成事

二一六

明寺の佛蘭西舟三艘派舟舟お取らる

月中夜出帆波濤球占多致河帆海上勢多
冲業全委右京包法交方中立如最委而後
以舟一圓改處心平舟上包取業お笑下右存
石丸及川中或石丸及事と中船と交ハ勿瑞何
事ト下下以法流中一編ら也

一 市中法及事多事と交右和と流本三事多米穀
其外法色車度空欄川上り食取多あり一白
遠言事多事出交あり一と事お乳急夜船中
舟由東流事船入陣と一先流とる多船を和
分ハ成文と下事多事出下ハお互と交助名不實
中一船渡九川市中一船速或石波格分多事多
波ハ

一 是船控却多事と交遠一はわう一と子船りら白端
此のらと事多中一多事
一 四船備は備と交ハ事と事南あり一と事と事交
と事
右と船其方九と事知向と上石波格下下流ハ

以衣入陣し佛蘭西船と交落物

- 一 大形四段帆石大矢控四挺宛或候左右あり合五拵
- 一 六挺付付あり也
- 一 中右同以
- 一 小船と保年と高形位祓あり事

一六二 八百五武百舟中葉未はるに事

一六三 九月卯申刻より白帆渡を方々合意し自著^{ツト}後

一六四 舟中陳侯後重に於て是れ舟中フウレ又舟中

一六五 舟中陳侯後重に於て是れ舟中フウレ又舟中

一六六 舟中陳侯後重に於て是れ舟中フウレ又舟中

一六七 舟中陳侯後重に於て是れ舟中フウレ又舟中

一六八 舟中陳侯後重に於て是れ舟中フウレ又舟中

一六九 舟中陳侯後重に於て是れ舟中フウレ又舟中

一七〇 舟中陳侯後重に於て是れ舟中フウレ又舟中

一七一 舟中陳侯後重に於て是れ舟中フウレ又舟中

一七二 舟中陳侯後重に於て是れ舟中フウレ又舟中

一七三 舟中陳侯後重に於て是れ舟中フウレ又舟中

一七四 舟中陳侯後重に於て是れ舟中フウレ又舟中

一七五 舟中陳侯後重に於て是れ舟中フウレ又舟中

一七六 舟中陳侯後重に於て是れ舟中フウレ又舟中

